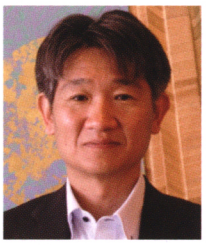
日本SPF豚協会だより
Report of JAPAN SPF Swine Association 2017.7 第68号



提◆言

# 変わり続けることが変わらない評価につながる

一般社団法人日本ＳＰＦ豚協会理事
伊藤忠飼料株式会社研究所
上野　啓介

「ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。淀みに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまるためしなし。世の中に・・・」。

これは皆様よくご存知の、鴨長明作『方丈記』の冒頭です。長明は河の流れをみて、「常に同じものはこの世には無い」と考えていたと解釈されています。しかし、私はこの一節を読むと、いつも全く違った感想を持ちます。河の流れはいつも違っていて同じ水ではない、しかしそこに流れているのはいつもの河である。つまり、「常に変わっていなければ同じもの（評価）にならない」と思うのです。

豚肉に言い換えれば、どれだけすばらしい豚肉であっても、絶えず改善されていなければ同じ評価を受けるのは難しいのではないかと考えています。

私の知っているある鶏肉生産者の話です。この生産者の鶏肉は、市場で非常に高い評価を受けています。しかし、この生産者は数年に一度、大幅なリニューアルをしています。この開発は非常に大変なもので、生産者と研究開発担当者が１年以上かけて侃々諤々の議論を重ねた上で実施されます。研究開発する立場の担当からすれば、当然、今よりも良いもの、美味しいものを目指して商品開発を行います。２回、３回とリニューアルを繰り返すと、始めの鶏肉と明らかに違うものになっていると思われるのですが、お客様（消費者）の評価は、「いつ食べてもここの鶏肉は美味しい」というものになります。言い換えれば、おそらくリニューアルをしないと、「ここの鶏肉はおいしくなくなった」という評価をされるかもしれないと思うのです。

有名な老舗飲食店の中には江戸時代創業の店もあります。お客の生活習慣も変わり、好む味も変わり、おそらく使う食材の味も変わっているでしょう。また、調理人も、調理器具も変わっているはずです。しかし、老舗は伝統の味を守り、お客様の期待に応えています。伝統の味が守られているのは、味が変わっていないからではなく、伝統の精神はそのままに、時代に合わせて日々味の改善を行っているからなのではないかと思います。

「カイゼン」という言葉があります。これは英語で「ＫＡＩＺＥＮ」と訳されるように、日本発祥の、生産現場で行われている見直し作業です。通常の、上からの指示で作業効率を改善するのではなく、作業の現場が中心になって、作業効率の向上や安全性の確保などに関して、ボトムアップで問題解決を図るものです。

養豚場における改善も、「カイゼン」であって欲しいと思います。現場で作業をする方々の日々の努力（改善）が、変わらない、美味しい豚肉をつくるために必要だからです。

ＳＰＦ豚管理をすることは、「カイゼン」する一助になるのではないでしょうか。ＳＰＦ豚管理のベースは科学的根拠に基づく、ルール遵守と計数管理にあると思います。「カイゼン」するためにも、計数管理による問題把握と改善方法のルール化は必須項目であり、ＳＰＦ豚管理を基に日々「カイゼン」を実施することは理にかなっていると思います。しかし、あくまでもＳＰＦ豚管理を基に「カイゼン」を行うことが重要なのであって、「ＳＰＦ豚管理しているから豚肉が美味しいということにはならない」ことは忘れてはなりません。

ゆく河の流れは絶えずして、しかももとの水にあらず。「カイゼン」なくして美味しい豚肉であり続けることもまたありません。ＳＰＦ豚認定農場の豚肉がいつまでも変わらず美味しい豚肉であって欲しいと願っています。

# 今年度の定時総会を開催

## 事業計画、理事改選など全ての議案を承認

**平成29年度の定時総会（代議員会）は6月15日（木）午後、東京都千代田区のＫＫＲホテル東京において開催されました。昨年度の事業経過報告はじめ同決算および監査報告、今年度の事業計画、理事改選、予算などすべての議案が承認されました。概略は次の通りです（会員の皆さまには議案および議事録をすでにお送りしてあります）。**

### H28年度事業経過報告

養豚を取り巻く環境は、枝肉相場が昨年度よりも10円低いものの528円で、３年連続で500円台となり、経営面での強力な後押しを続けています。一方でＰＥＤは散発的な発生が見られ、気を抜くわけにはいかないようです。

また、ＴＰＰ問題も、アメリカの離脱で漂流を余儀なくされました。農場ＨＡＣＣＰの普及推進事業については、養豚関係の推進農場指定は、３月現在34農場（内ＳＰＦ豚認定農場８農場）、認証農場指定は42農場（同７農場）となっています。

このような環境の中、日本ＳＰＦ豚協会はＳＰＦ豚農場認定制度を柱として各事業に取り組みました。認定申請見送りの農場もあり、認定農場数は178農場（ＧＧＰ・ＧＰ18農場、ＣＭ160農場）で昨年同様ながら飼養母豚数は7万9,409頭と1,009頭（1.3％）減少しました。

ＣＭ農場の生産成績をみると、一貫経営農場では１母豚当り年間出荷頭数が22.1頭（昨年度21.6頭：全国平均19頭強）と0.5頭増加、Ａ薬品費（抗菌性物質）は209円（全国平均は900円弱）で昨年より9円増加、農場要求率は3.21（昨年度3.23）でした。繁殖専門農場（繁殖-Ⅱ）では１母豚あたり年間出荷子豚頭数が23.7頭（昨年度23.0頭）で0.7頭増加、Ａ薬品費は116円で22円減少しました。肥育専門農場（肥育-Ⅱ）はＡ薬品費が134円で19円増加しました。

ＳＰＦ豚の普及促進活動としては、10月に川崎市で開催された「ちくさんフードフェア」に出展、ＳＰＦポークの試食アンケート調査、及びパネル展示を実施しました。両日とも時折大雨に悩まされましたが、２日間で約８万8,000人の来場者がありました。

11月にはＳＰＦ豚セミナーを開催しました。海外養豚事情の講演は大好評で、165名の参加がありました。

認定マークシールについては、８月以降使用を無料化し、認知度アップおよび普及促進グッズとしての位置づけに変更いたしました。協会オリジナルキャップとＴシャツの販売、およびポークリーフレットの配布も継続しています。

協会だよりは予定通り63号、64号、65号、66号を発行いたしました。

地域研修会は熊本での開催を予定していましたが、４月に発生した熊本地震のため中止といたしました。

昨年度に改正されたＳＰＦ豚農場認定規則に伴い、諸基準および細則の検討・見直しも進めました。また、農水省の要請を受け薬剤耐性対策（ＡＭＲ）推進にも協力いたしました。

### H29年度事業計画

限られた予算の中ですが、会員およびピラミッド関係者の理解と協力を得ながら、事業推進を図ります。また、２年後に迫った協会設立50年という大きな節目に向けて、記念事業実施のための準備を本格的にスタートさせます。

#### ＳＰＦ豚農場認定制度の見直し

認定規則の全面的な見直しに伴う各基準および細則の整備を引き続き行います。

#### 防疫設備基準、防疫管理基準の徹底

ＳＰＦ豚農場認定規則及び関連する基準、細則に基づき、厳格な運用を行います。

また、今年度は防疫設備調査実施年となります。６

月認定から1年間実施します。不備な面については、改善計画の提出を義務づけます。

### 実験用家畜ブタ生産農場福祉認証の検討

認定農場に対する実験用家畜ブタ供給ニーズをふまえ、協会として福祉認証について検討します。

### 認定委員会の開催

認定委員会は6、9、12、3月の計4回開催します。

### 認定成績集計結果のフィードバック

ＳＰＦ豚農場認定申請の際に提出される生産成績を集計して、認定証発行時にこれまでの成績の推移を、年度末には各認定項目の順位表を、各ピラミッドを通じて農場にフィードバックします。ベンチマーキングに活用して農場成績の改善に役立ててもらいます。また、地域研修会等でも検討会を持ちたいと思います。

### 生産成績優秀ＣＭ農場の表彰制度の継続

引き続き、総合生産成績および商品化頭数について最も優れた成績を収めた農場を選考委員会により選定、セミナーで表彰します。新たな表彰の対象項目についても検討を加えていきます。

また、集計を実施している13年間の生産成績が10回以上、上位25%に入っている農場には、認定証にその旨の優秀マークを付記します。

### ピラミッド会議の開催

円滑な事業推進のためピラミッド会議を開催します。成績低迷農場の対策、ＳＰＦ豚セミナー、地域研修会、技術懇談会等のテーマ・内容について検討します。

### ＳＰＦ豚セミナーの開催

今年度も引き続きセミナーを実施します。11月、ＫＫＲホテル東京での開催を予定しています。

### 地域研修会と技術懇談会の開催

開催地域、開催時期、テーマ等を検討していきます。

### 協会だよりの発行

67号（4月）、68号（7月）、69号（10月）、70号（1月）を発行します。会員へのインタビュー、ＳＰＦポーク販売の取り組み、技術情報連載などを引き続き積極的に取り上げます。

### 販促用資材の制作と普及

店頭用ポークリーフレット、協会パンフレットを引き続き希望会員に無料で配布します。また、認定マークの積極的な使用を会員に働きかけます。さらに、認定農場向け協会オリジナルキャップとＴシャツの販売を継続します。

6月15日に開催された定時総会

### ＳＰＦポークの普及

全会員と協力して、様々な機会をとらえ、ＳＰＦ養豚の仕組みと生産情報がわかるような「ＳＰＦポークに関する知識の普及」に努めます。

#### ●イベントへの参加

今年も10月7、8日開催予定の日本食肉流通センター主催「ちくさんフードフェア」に出展します。また、地方開催イベント等への参画も検討します。

#### ●ＳＰＦポーク販売情報の収集、整備

協会だよりの取材を通じた取り扱い店舗情報や、認定農場のネット販売などの直売情報も提供します。

#### ●こども食堂への豚肉提供、食育活動

すでに取り組んでいる千葉県のＳＰＦ豚認定農場による、こども食堂へのＳＰＦポーク提供を引き続き実施します。他地域での展開も検討していきます。

また、認定農場と協力して、地域の幼稚園や保育園、調理学校などを対象に試食会などの食育活動も検討します。

### 協会設立50周年記念行事の検討

記念事業実行委員会を立ち上げ準備を進めます。記念事業に対する協賛金の募集等についても検討します。

### 賛助会員の募集

事業推進のための新たな収入源として、賛助会員の拡大を図り、広く関係団体等に働きかけます。

### ホームページ等を活用した情報提供

会員のためにより役立つものになるよう、協会ホームページのリニューアル、活用方法について検討します。

◆連 載No.13◆
豚のウイルス病

# 呼吸器病（ＰＲＲＳ③）

農研機構 動物衛生研究部門
ウイルス・疫学研究領域
高木　道浩

## 予防と制御（表）

ＰＲＲＳを予防するための基本事項として、農場外からのウイルス侵入防止があげられます。このことはウイルス陰性農場のみならず、ウイルス陽性農場においても新たな株を農場に侵入させないために大変重要です。

具体的には、繁殖候補豚や精液の導入元はそれぞれ一本化してウイルス陰性の豚や精液を購入すること、導入豚は隔離飼育をして検査すること、肉豚の出荷や飼料の搬入などに係わる車両の消毒を徹底して行うとともに作業工程を指定すること、また外来者の入場制限、野生動物などの侵入防止対策などが重要です。

ウイルス陽性農場におけるＰＲＲＳの制御では、特に、母豚群でウイルスを循環させないことと、離乳前までの子豚への垂直および水平感染を如何に防ぐかが重要と考えられています。母子感染が起こると感染子豚は離乳舎での感染源となり、ＰＲＲＳウイルスは同居子豚に水平伝播してしまうため、離乳舎でオールイン・オールアウトを実施してもＰＲＲＳウイルスは排除されません。このような感染環を遮断するため、母豚群での免疫の安定化、特に外部から導入した繁殖候補豚の管理が重要となります。母子感染が確認されない農場においては離乳豚のオールイン・オールアウトを徹底することにより、子豚での感染日齢が遅くなり、その結果、ＰＲＲＳの病態が軽減されます。

他に、ＰＲＲＳの制御にはピッグフローを適正に遵守することがあります。ピッグフローの改善やオールイン・オールアウトは効果の高い方法の一つであり、農場の広さや施設の位置などを農場ごとに考慮する必要はあります。子豚、肉豚の生産ステージでの豚の流れを一方向として、逆流させないことにより水平感染を遮断することは重要です。

表　PRRSの予防と制御

| 予防 | 制御 |
|---|---|
| 1、ウイルスの侵入防止 | 1、母豚群でウイルスを循環させないこと |
| ・感染豚 | ・母豚群での免疫の安定化 |
| ・汚染精液 | ・繁殖候補豚の管理 |
| ・運搬車両等 | →馴致 |
| ・人 | 2、オールイン・オールアウト |
| ・衛生昆虫、野生動物等 | 3、消毒 |
| 2、消毒 | 4、ピッグフロー |
| | 5、二次感染への対策 |

次に、種豚候補豚を馴致舎にて馴致を行うことです。候補豚におけるＰＲＲＳウイルスの体外排泄は、最長で90日間と報告されており、少なくとも３ヶ月は馴致舎にて収容し、ウイルスの排泄がないことを確認、また十分な回復期間を設けてから種豚舎へ導入することが重要です。また、ＰＲＲＳの予防には、豚舎や豚房の清掃と消毒の徹底が有効です。ＰＲＲＳウイルスは乾燥に極めて弱く、酸・アルカリに対する感受性、温度に対する抵抗性も弱いためです。効果的な消毒は、混合感染の病原体に対しても有効となり、農場の疾病低減や発症軽減となります。しかし、消毒薬によっては有機物の混入により効果が減弱することから、糞尿などを除去し、洗を行うことにより消毒効果を最大とする必要があります。

このほか、適正な温度、換気および飼育密度の維持など飼養環境を含めた総合的な飼養衛生管理が重要となります。子豚はＰＲＤＣによって重症化する傾向にあることから、他の呼吸器病原体の対策も必要となります。加えて、各農場でＰＲＲＳの発生状況やＰＲＲＳウイルスの株ならびに感染動態を継続的にモニタリングし、農場ごとに飼養管理や衛生管理の作業手順を示した「管理マニュアル」を作成し、マニュアルの点検や見直しを随時行うことも重要です。

連　載　豚舎の害獣対策・害虫対策・消毒などのポイント24

# クラウドシステムを使って野生動物の出没を知る

岐阜大学応用生物科学部特任准教授　森部　絢嗣

どんな野生動物がいつどこで出没しているかを知るためには、トレイルカメラは非常に便利です。これはただ単に動物を撮影するだけでなく、畜舎従事者の鳥獣害対策意識を向上させる上でも有効です。実際に農業従事者の方にイノシシやシカの映像を見せると、驚きと同時に危機意識が芽生え、被害対策のために柵の設置や狩猟免許を取得し、自らが捕獲へ参画することもあります。

このようなトレイルカメラで撮影された画像を確認するためには、現場に赴きカメラ内のモニターで確認するか保存用ＳＤカードを取り出しパソコンで確認する必要があります。そのため、実際の出没（撮影）から確認までにタイムラグが生じてしまいます。

その欠点を解消するために、最近では、携帯電波の通信システムを搭載したトレイルカメラ（第60号参照）が複数のメーカーから販売されるようになりました。仕組みは、動物の出没を検知し、撮影した後、登録したメールアドレスへ送信します。送信から受信までに数分かかるものの、ほぼリアルタイムに知ることができます。また設定を変更することで、定期的に静止画や動画を撮影し送ることもできますし、スマホから遠隔撮影もできます。そのため、現場に行かなくても定期的に状況確認ができ、管理者の労力を軽減できます。防疫上、立ち入り作業が大変な時にも便利な機能です。

これらの機能でだいぶ便利になったのですが、画像はメールに添付された状態で届くので、画像を確認するためにはメールを一つずつ開く必要があります。そこでさらに新しいシステムが開発され、クラウド上で静止画や動画を一覧として確認できるようになりました（図１）。ブラウザー上からログインすることで登録したカメラの画像を一覧として確認できます。写真にタグをつけられるため、種類別の検索や枚数なども整理も簡単です。契約プランによっては、カメラ100台、15,000枚もの画像を一括管理できます（図２）。このクラウドシステムの無料ユーザーアカウントを作ることで、従事者から農場管理者、経営者までが同時にカメラの画像一覧を共有する使い方もあります（無料アカウントユーザーは５台まで共有可能）。もちろんスマホからもアクセスができるので場所を選びません。

図1．クラウド上に送信された画像の一覧

図2．カメラごとに画像を管理できる。クラウドの年間利用料は、管理台数により異なり、6,000円から36,000円。

トレイルカメラはバッテリーでも家庭用電源（オプション）でもどちらにも対応しているので、現場の状況に合わせて流動的にカメラの運用が可能です。現場を効率よく知る、これが獣害対策の第一歩です。

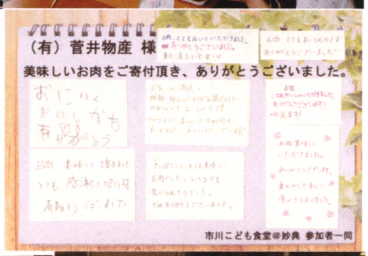
ト◆ピ◆ッ◆ク◆ス

# 千葉県の認定農場の「こども食堂」への豚肉提供 拠点も増え、新たな協力農場も

千葉県内の認定農場に豚肉提供のご協力をいただいている、千葉県市川市の「市川こども食堂」。前号でご紹介してからも順調に回を重ね、４月には新たな拠点での開催も始まりました。

各農場には４～６月に３回、豚肉を提供いただきました。また、すでに何度もご協力いただいている認定農場・㈱林商店肉豚出荷組合（７農場、東庄町）、㈲下山農場（旭市）、「ＪＡかとり東庄ＳＰＦ豚研究会」（11農場、東庄町）に加え、新たに㈲菅井物産（２農場、旭市）にもご賛同いただき、ご提供いただきました。

4月15日開催の妙典会場は、酢豚と豚しゃぶサラダとＳＰＦポークたっぷりメニュー（上）。今回新たにご協力いただいた菅井物産さんにお礼のメッセージも（右）。



新たな拠点となった市川会場(4月29日開催)。豚肉と野菜のトマト煮がメイン（上）。おいしいごはんのあとはみんなで宿題？（提供：㈲下山農場）

子どもの孤食や貧困問題解消に少しでも役立てばと若いボランティアが中心となって運営しているこども食堂。豚肉をメインに使うことは難しい現実もある中、ＳＰＦポークのおいしさは参加者にもスタッフにも大変驚かれ、喜ばれています。「くさみがない」「やわらかくておいしい」「お腹一杯になった」といった感想が多く寄せられていて、普段はあまり食べない子どももたくさん食べてくれたり、おいしいお肉が会話の糸口となり、食べて笑顔になって会話も弾んだそうです。ＳＰＦポークの普及や食育につながる大変有意義な取り組み、各農場のご協力に感謝しながら引き続きご紹介していきます。

6月3日開催の行徳会場で用意された豚肉のマーマレード焼き（左上）。ここではバイキング形式、子どもからお年寄りまで幅広い参加者が（提供：ＪＡかとり東庄ＳＰＦ豚研究会）

## ●協会からのお知らせ●

### ●理事の改選

今年度は理事の改選時に当たります。今期の理事は次の方々です（順不同、敬称略）。

北島克好（会長、会員外理事）、秦　政弘（副会長、サンエスブリーディングピラミッド）、鈴木　保（副会長、シムコピラミッド）、日浅文男（北海道・㈲道南アグロ）、林　寛康（千葉県・㈱林商店）、下山正大（千葉県・㈲下山農場）、小椋和典（鳥取県・㈱西日本ジェイエイ畜産）、吉見隆治（新任、宮崎県・㈱ファームテック）、種田貴至（全農畜産サービスピラミッド）、上野啓介（伊藤忠飼料ピラミッド）、大関輝男（日本農産工業ピラミッド）、小師　聡（新任、ホクレンピラミッド）、藤田世秀（専務理事、会員外理事）

### ●認定委員長の交代

ＳＰＦ豚農場認定委員会の委員長が、柏崎守氏から濱岡隆文副委員長に交代いたしました。副委員長には学識経験者委員の岩村祥吉氏が就任いたしました。柏崎前委員長には引き続き学識経験者委員をお務めいただきます。

# 豚バラちゃんぷるー

●レシピ提供・島國酒場　酒＆あすか店主　浅野あすか（東京都三鷹市）

今や定番メニューともいえるチャンプルー。何といっても豚バラ肉の旨味が欠かせません。
専門家においしく作るコツを教えていただきました。ぜひお試し下さい。

**●材料●（作りやすい分量）**

ＳＰＦ豚バラ肉スライス　100g
卵　2個
ニラ、もやし、その他野菜（キャベツなど火の通りやすいもの）　適量
豆板醤　小さじ1
にんにくすりおろし　小さじ1
しょうゆ　大さじ1
塩・こしょう・味の素　少々
バター、一片
ごま油またはラード　大さじ　1

**●つくり方●**

① フライパンを温め、ごま油またはラードをひきます。
② 豚バラスライスを入れ、火が通ったら、塩、こしょう、バター、にんにくすりおろし、豆板醤、醤油を入れてお肉に絡めます。
③ もやし、食べやすい大きさに切ったニラやその他の野菜を加え、強火で一気に炒めます。
④ 野菜に火が通ったら、溶きほぐした卵をまんべんなく入れます。
⑤ 卵によく火が入れば出来上がりです。

【浅野シェフからのアドバイス】

野菜を入れたら強火で一気に炒めましょう。
卵を入れた後は、一度火を消して30秒待ってからひっくり返します。
仕上げにかつお節をかけるとさらにおいしいですよ！

## ●認定情報●

### ●平成29年度認定農場

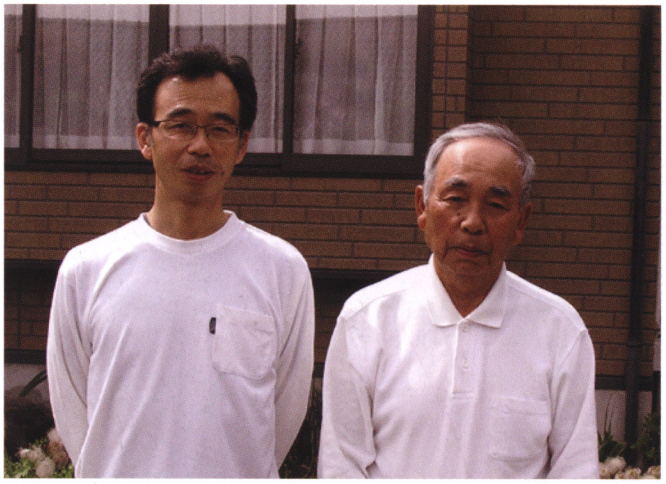
[6月認定]（有効期間：平成29年6月9日から30年6月30日まで）

**北海道**・㈲鈴木ビビッドファーム、青木ピッグファーム㈱、㈲ゲズント農場、㈲フロイデ農場、**岩手県**・全農畜産サービス㈱東日本原種豚場、ＦＶファーム、**福島県**・㈲東和牧場、**茨城県**・㈲弓野畜産繁殖農場、同八郷農場、同千代田農場、㈲篠崎畜産、**群馬県**・ＪＡ東日本くみあい飼料㈱利根スワインセンター、利沼田ドリームファーム㈱、**千葉県**・江波戸ＳＰＦ農場、高橋幸雄養豚繁殖農場、同肥育農場、㈲ピギー・ジョイ第１農場、木内養豚第１農場、同第２農場、石毛宏司養豚場、塚本利昭養豚場、宮澤泰徳養豚場、吉田道養豚場、**鳥取県**・㈱西日本ジェイエイ畜産名和農場、**岡山県**・岡山ＪＡ畜産㈱荒戸山ＳＰＦ農場、**愛媛県**・冨永養豚、㈱多田ファーム、ＪＡ西日本くみあい飼料㈱愛媛養豚実証農場伊予スワインガーデン、**佐賀県**・ＪＡさが富士天山ファーム、**長崎県**・㈲伊藤ファーム、浜田養豚、ＪＡ全農長崎県本部五島種豚供給センター、**宮崎県**・㈲レクスト繁殖農場、同肥育農場、江夏商事㈱御池農場、江夏商事㈱川南農場、**鹿児島県**・㈱かいたく大口農場、鹿児島いずみ畜産㈱三笠農場、㈲さつま農場　（以上40農場）

**※次回認定委員会は平成29年9月7日(木),8日(金)の予定**

SPFのひと

ピッグファームゴカン
# 後閑　保さん
# 昭徳さん
●群馬県高崎市


後閑保さん、昭徳さん親子

## 父と息子、仲よし親子で取り組む自分のためのＳＰＦ養豚

後閑家は保さん（76歳）で六代目という代々の農家。自宅裏山の大木がその由緒を物語ります（写真）。現在は合併して高崎市ですが、「十文字大根」の産地として有名な地域です。梅の生産も全国指折、かつては養蚕も盛んでした。

梅と大根が中心作物だった保さんが庭先養豚を始めたのは30年以上前、堆肥づくりのためでした。その後生産性を考え増頭、母豚120頭規模のＳＰＦ豚農場に。協会認定制度スタート時からの歴史ある認定農場です。

養豚はまったくの独学。ＳＰＦを選んだのは「病気がなく、成績が上がったからですね」。

長男の昭徳さん（45歳）は小学生の頃から農場を「手伝わされ（笑）」さほど豚が好きなわけではなかったとか。埼玉県の大学の工学部に進学します。ちなみに「学費はすべて豚のおかげで出せました」と保さん。卒業後は地元企業に就職しますが６年ほどで退社。就職難で家にいたところを「手伝えと言われて仕方なく」農場に。「何となく続いてます」と笑いますが、以来およそ20年、向いていたのではないでしょうか。

親子はなかなか難しいという話も聞きますが、お二人は？「１日口をきかないこともありますよ（笑）。まあ意気が合ってないとできませんが」（保さん）。

保さんの趣味は「仕事が趣味みたいなもので。20年続けてるゴルフかな」。小学校から高校まで剣道を続け、陸上選手でもあったという昭徳さんも数年前から始めたそうですが「親父の方がうまいです」。こちらは大の車好き、ドライブが何よりの楽しみだそうです。

「豚に追い回されて生きるのではなく、自分あっての豚です」と保さん。「病気は絶対入れない。（協会に対しては）もっと認定のメリットを感じられるといいですね」と昭徳さん。お互いを尊重し合う、父と息子の仲のよさ、お人柄のよさが伝わってきました（編集部）。

**編集後記**

時代の変化（チェンジ）は新しいものを求める。そこにチャンスが生まれる。CNANGEのGをCに変えればCHANCEになると言った人がいます。あらゆるCHANGEはCHANCEの到来。その変化の兆しをキャッチできるか？アンテナの張り巡らせ方か？。多くの人と出会い、さまざまな考え方を学び取る。「見る」から「視る」へ、そして「観る」に至る。「聞く」から「訊く」へ、そして「聴く」に。「思う」を「想う」に高め「念う」に深化させる。自らの行動を変化させることができるか？難しいですが、キーポイントです。（世）

日本ＳＰＦ豚協会認定農場産シール
このマークは
日本SPF豚協会 の
登録商標です

日本SPF豚協会だより
第68号　2017年7月1日発行（季刊）
発　行　一般社団法人 日本ＳＰＦ豚協会
〒101-0032　東京都千代田区岩本町1-8-2
TEL.03-5835-5375　FAX.03-5835-5376
e-mail：j.spf.a@nifty.com
http://www.j-spf.com/
発行人　北島　克好
編集人　藤田　世秀